

令和7年度 高岡支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	VRゴーグル・360度カメラを活用したバーチャル体験学習の促進	
現 状	近年、VR (Virtual Reality) 技術は急速に発展し、私たちの生活場面に様々な形で浸透してきている。そのメリットは多岐に渡るが、とりわけ3Dコンテンツによる直感的・体験的な理解が可能であること、時間的・地理的制約が解消されること、危険であったり複雑であったりして現実では体験することが難しい場面を安全に再現できることなど、学校での学習活動に対しても大きなメリットになり得る可能性をもっている。一方で、本校でもICT機器の整備の過程で、VRゴーグルや360度カメラといった先進的な機器を保有してはいるものの、VR動画コンテンツの作成方法、VRゴーグルの授業での活用のための準備が整っておらず、学習活動での活用方法が確立されていない。そこで、保有する機器を活用し、授業での実践を見越して教材コンテンツを作成できるよう教員のスキルアップを図ったり、児童生徒にリアルに近い体験を多く積み重ねるためVRゴーグルを活用した授業実践を積極的に行ったりしていきたい。	
達成目標	①360度カメラで撮影したVRゴーグルで利用可能な学習教材の作成	②VRゴーグルを活用した授業実践
	五つ以上	年間5件以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 必要なソフトウェアや機器を準備し、VR動画コンテンツ作成の環境を整える。 教職員に対してVRゴーグルを知ってもらう機会を設ける。 VR動画の活用が効果的だと思われる教材のアイデアを募集する。 活用のイメージをもてるように、実践事例を紹介したり授業準備のアシストを行ったりする。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 校内オリエンテーション用教材 交通安全—横断練習用教材 清潔指導—手洗い練習教材 校外学習—事前学習用教材 公共交通機関の利用に関する教材 修学旅行—事後学習用教材 計六つ 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に関する授業 1回 校外学習事前学習 2回 路線バスの利用に関する授業 3回 修学旅行事後学習 1回 計7件
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 360度動画編集可能なソフトウェアのインストールおよび編集作業、VRとの接続、アプリやコンテンツのデータ転送、3Dコンテンツ作成環境であるUnityのセットアップ等を行った。 夏季休業中に他校での実践取組を聞いたり、ワークショップ形式で教員に体験してもらったりする研修会を開催した。 教材のアイデアを広く募集することはできなかったが、ワーキンググループ内で避難訓練や健診体験、交通安全等のアイデアを出し合った。 今年度の授業実践を紹介する研修会を来年度に計画している。 	
評 価	A	新しい技術を授業で活用していくための土台作りとしては、教材の作成件数および授業実践の回数の達成目標件数の達成に加え、360度カメラやVRゴーグルとその開発環境のセットアップ、教員対象の研修会の開催や他校との情報交換を行ってきたことで評価できると考える。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習の可能性を感じさせられる良い取り組みであった。教材の開発には、現実には体験が難しいが一生に一度は体験してほしいものを選定したり、日常の延長上に位置するような身近な場面のアイデアを出し合ったりしてほしい。 効果的に授業で活用するために、複数台を同時使用して待ち時間を減らしたり、一人のVR体験をみんなで共有できる仕組みを考えたりしてほしい。 教材開発を始め運用に掛かるコストについてよくまとめられている。開発の外注や既存のものを購入するなどして持続可能な運用体制を構築してほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> より多くの児童生徒にバーチャル体験学習が可能となるよう、教職員がVRゴーグルを気軽に使えるような環境、教材を整えていく。 教材開発のためのアイデアを広く募集し、合わせて開発に掛かる費用、時間、技術的なコスト削減に向けた仕組みを検討していく。 	

重点項目	特別活動（特活）	
重点課題	・地域の事業所や住民等との連携を通じたスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動への参加の奨励	
現 状	・本校児童生徒ほとんどが下校後に放課後等デイサービス事業所を利用している。 ・休業日や放課後に、一部の児童生徒が地域のスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動に参加しているが、特活部としてその活動内容や対象とする児童生徒については把握していない。また、それらの案内についてもほとんど実施していない現状である。	
達成目標	①地域の事業所や住民等と連携した児童会活動・生徒会活動、部活動等の設定	②児童生徒が利用している地域でのスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動の案内
	3回以上	3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動、生徒会活動、部活動等において、地域の事業所や住民等と連携した活動を取り入れるようにする。（さわやか週間、陸上部：交流マラソン、室内競技部：合同練習会、音楽部：交流コンサートでの演奏、コンピュータ部：ポスター等の作成及び印刷、美術部：公民館での作品展示 等） ・児童生徒が利用している地域でのスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動について調査し、必要に応じて児童生徒、保護者へ案内する。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやか週間（前期、後期）：朝の挨拶の呼び掛け、清掃ボランティア ・陸上部：交流マラソン：地域住民からの応援、卒業生勤務先の協力 ・室内競技部：フライングディスク競技体験会、卓球練習会 ・美術部：公民館作品展示 ・音楽部：交流コンサートでの共演 ・コンピュータ部：交流コンサートポスター枠の作成 ・交流コンサート：地域住民との鑑賞 <p style="text-align: right;">計11回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スペシャルオリンピックス ・富山県障害者スポーツ教室（水泳教室） ・富山県障害者スポーツ教室（フライングディスク教室） ・モノ美術学院 ※予定 <p style="text-align: right;">計4回</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会、生徒会が主体となって実施する「さわやか週間」では、朝の挨拶呼び掛け及び清掃ボランティアに、のべ22名の地域住民の参加があった。 ・全ての部活動において、直接的、間接的に地域住民と触れ合う活動を設定した。 ・本校児童生徒が利用している地域でのスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動について調査し、「児童会・生徒会通信」を活用して本校児童生徒の活動の内容や様子を案内した。 ・児童生徒が興味・関心をもち、参加が可能であると考えられる様々な校外での生涯学習につながる活動についてあんしんメールにて積極的に案内した。 	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動、生徒会活動において、地域住民と共に活動したり温かい言葉を掛けていただいたりしたことで、児童生徒の活動意欲や地域の一員としての意識が高まった。 ・地域住民の来校の機会や児童生徒との触れ合いの機会を多く設定したことで、本校の児童生徒への理解が深まった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会・生徒会が主体となって実施する「さわやか週間」や部活動等において、目標数を大きく上回る地域の事業所や住民等と連携した活動を設定した。参加しやすい環境が整っており、地域住民等をうまく巻き込んだ活動となっていた。 ・卒業後の生活を見据えた非常に意義深いものである。生涯学習活動について本校卒業後にも継続している現状の把握があるとよい。 ・地域連携の広がりは大変だが、負担が大きくならないよう従来の活動とのバランスを保ってほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「集団活動」と「実践的な活動」を軸とした特別活動がさらに充実していくよう、今年度新たに設定した活動や事業を今後も継続していく。 ・児童生徒や教職員の負担を配慮しながら、地域の事業所や住民等と連携した活動を模索していきたい。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他（総務）	
重点課題	PTA活動への主体的な参画を目指した引継ぎファイルの工夫や活動内容の見直し	
現 状	<p>令和6年度より本格的に再開したPTA活動では、参集型の研修会や情報交換会、親子活動が好評だった。一方、5年ぶりの活動に手探りで企画・運営する様子が見られた。本校では、役員や委員の任期は原則1年である。また、企画・運営は前任者や活動経験者に聞いて行うことが多く、以前から引継ぎ方法が課題になっていたことから、昨年度、各委員会（全7委員会）で引継ぎファイルを作成した。ただ記載内容が統一されておらず、また有効に活用できる内容が不十分であるため、今後役員や委員と内容を検討し、次年度の委員が見通しをもち活動を運営できるような引継ぎファイルに改善したいと考えた。</p> <p>また、近年実施できていないベルマークの仕分け・収集活動の在り方について、昨年度末に役員と意見交換をしたところ、教育環境を整えることにつながる活動であることから、活動内容を見直して実施したいとの意見が多く聞かれた。そこで、アンケートによって保護者に参加できそうな方法を聞き取った。このアンケートを踏まえ、今年度は、「会員が楽しく、無理なく、会員それぞれができる形で」参加できる方法をベルマーク担当の総務委員と協議し、活動方法を見直すことにした。</p>	
達成目標	(1) 引継ぎファイルの見直し 各委員会で2回検討	(2) ベルマークの収集、仕分け等への参加人数 のべ60名
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の役員会で引継ぎファイルを見直す。ファイルには、活動の振り返り（チェック）、次年度に向けた検討事項（アクション）及び次年度の企画（プラン）が記載できるようにする。また、作成を通して、活動の目的に応じた企画・運営の在り方や活動内容について委員同士で意見交換できるよう工夫する。 ・各委員会で活用後、11月の役員会で意見交換し、2月の役員会で見直す。 ・総務委員と保護者の意見を取り入れた「ベルマークの日」を企画し、実施する。 ・第1回（6月）の実施状況を踏まえ、委員と活動内容や参加の呼掛け方等について見直し、第2回（夏季休業中）、第3回（9月）に生かす。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会で行事後と次年度の企画検討時に様式の見直し ・11月の役員会での意見交換 各委員会で2回実施 	<p>参加保護者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 6月 来校 26名 ・第2回 8月 持ち帰り 80家庭 ・第3回 9月 来校 26名 <p>参加人数 のべ132名（各家庭1名で集計）</p>
具体的な取組状況	<p>(1) 引継ぎファイルの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様式1「すること一覧」様式2「ファイルに綴るもの一覧」様式3「次年度への提案（企画改善のための手順表、次年度の企画案）」を提案した。 ・様式1、2については、業務内容や時期に合わせて委員会毎に改善したいとの意見が出て、各委員長が様式を整えた。様式3を活用して、各委員会行事のねらいや課題点、改善点を整理（チェック、アクション）し、各委員会で次年度の具体的な企画案（プラン）を立てた。中には、活動を廃止し、新企画を立案する委員会があった。 <p>(2) ベルマークの収集、仕分け活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回と第3回は来校する保護者が多い部活動の実施日や懇談会の日に設定した。第2回は家庭に持ち帰って仕分けを行う仕組みを設定した。一般会員の参加もあった。 ・第2回は、7、8月限定で企画したが、保護者から「更にベルマークを持ち帰って仕分けを行いたい」との声が聞かれたため、期間を延長して実施した。 	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎファイルは、次年度担当者が見通しをもって運営できる視点でまとめられ企画、運営の在り方や活動内容を次年度に引き継ぐ仕組みが整えられた。 ・ベルマークの仕分け・収集活動については、保護者の意見を取り入れ、活動方法を見直したことで、保護者の主体的な参加が見られた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎファイルの様式作成は良い取組である。文字を大きくする、様式1の備考欄に「担当者」や「作成期間」を設けるとよい。ファイルの見直しを通して、保護者と学校が協同する姿につながっている。 ・ベルマーク活動の目的を「教育環境整備」とするならば、希望する商品や必要な目標ポイントを提示したり、地域の事業所等に声を掛けたりすると協力者が増えると思う。保護者同士が子育ての悩み等の話ができる貴重な「交流の場」となっている。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・委員が見通しをもち、活動を運営できるように、見直した引継ぎファイルの内容や活用方法について有効性を検証し、改善する。 ・ベルマークの活動では、「会員が楽しく、無理なく、会員それぞれができる形で」参加できるように、教材購入の目標設定や地域への協力依頼を保護者と一緒に検討する。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）